



👁️👁️ みどころ

ハリウッド作品を香港の陳木勝（ベニー・チャン）監督がリメイク！その発想にビックリだが、こりゃ本家以上に面白い？

まずは、誘拐され、1本の電話が命綱となる美女の子供を思う切なさで強さに注目！そして、一見頼りなさそうなメガネ男の義侠心にも注目だ！

カーチェイスの醍醐味とスリル満点の追跡劇を楽しみながら、ハッピーエンドを迎えたいが、きっとどこかに大波乱が？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ベニー・チャン監督VSジョニー・トー監督■□■

本作は香港（古天樂／ルイス・クー、張家輝／ニック・チョン）、台湾（徐熙媛／バービー・スー）、中国（劉燁／リウ・イエ）の俳優が勢ぞろいしているが、香港のルイス・クーもニック・チョンもどちらかというと、本作の陳木勝（ベニー・チャン）監督よりも杜琪峰（ジョニー・トー）監督作品の常連。つまり、ルイス・クーはジョニー・トー監督の『柔道龍虎房』（04年）（『シネマルーム17』90頁参照）、『エレクション』（05年）（『シネマルーム17』67頁参照）、『エレクション2』（06年）などに、ニック・チョンはジョニー・トー監督の『エレクション』（05年）、『エグザイル／絆』（06年）などに出演しており、私もそれらをすべてチェック済み。またルイス・クーは張柏芝（セシリア・チャン）が主演した爾冬陞（イー・トンシン）監督の感動作『忘れえぬ想い』（03年）で、死亡する恋人役を演じていたから私にはお馴染みの俳優だ（『シネマルーム17』186頁参照）。

ベニー・チャン監督とジョニー・トー監督は香港の映画界で長年にわたって安定した力

を發揮しているが、ベニー・チャン監督は成龍（ジャッキー・チェン）との関係が深く、『香港国際警察／NEW POLICE STORY』（04年）（『シネマルーム17』489頁参照）、『プロジェクトBB』（06年）（『シネマルーム17』494頁参照）などが有名。しかして突出した人気を誇っている劉偉強（アンドリュー・ラウ）、アラン・マック監督の『インファナル・アフェア』（02、03年）3部作は別格として、私の評価としてはベニー・チャン監督よりジョニー・トー監督の方が上だった。ところがベニー・チャン監督の本作を観て、ベニー・チャン監督を俄然見直し。

私はリメイクの元となったキム・ベイシングー主演のハリウッド発の『セルラー』（04年）を観ていないが、こりゃひょっとして元祖越えの面白さ？基本的なストーリーは踏襲しているらしいが、ここ香港はアメリカとは舞台も違えば国民性も違っている。さらに携帯機能の進歩も著しい。シングルマザーの一人娘を思う気持は全く共通だが、さて1本の電話だけでアボン（ルイス・クー）に繋がっているグレイス・チャン（バービー・スー）の思いは通じるのだろうか？

■□■美女が窮地に立てば、誰だって？■□■

本作が大好評を博し、第28回香港電影金像獎（香港アカデミー賞）で、監督賞、主演女優賞、編集賞、アクション設計賞、音響効果賞の5部門にノミネートされる健闘をみせたのは、きっとワケのわからないまま誘拐犯（リウ・イエ）たちに誘拐され、監禁されるシングルマザー、グレイス役を演ずるバービー・スーが高学歴（？）高収入（？）をハナにかけない清楚な美女だから？つまり、そんな美女がワケのわからない犯人たちにいじめられ、ロボット設計士らしい知恵と機転によって、やっとアボンに繋がった1本の電話を命綱として助けを求める姿に男なら誰だって同情するわけだ。

もちろん、電話を取ったアボンには電話の主が美人かどうかはわからないうえ、海外に旅立つ息子を空港で見送るという重大な約束を履行するために車を急がせているアボンにとって、そんな電話は迷惑千万。しかるに、以降アボンがグレイスに協力し、驚異的な力を發揮したのは一体なぜ？それにはいろいろな要因があるが、電話の主が美人だと直感したこともその一因では？

■□■あの純真だった青年が、今はこんな悪役に？■□■

本作では、グレイス自身が①なぜ自分の車の横っ腹に車をぶつけられたのか？②なぜ自分が拉致監禁されたのか？③誘拐犯のリーダーらしい黒いサングラスの黒づくめの男は一体何者なのか？④彼らが提出を要求する「例の品物」とは一体何なのか？さらに、⑤なぜ弟のロイと連絡をとることにそんなに固執するのか？などがサッパリわからないのと同様、私たち観客にもサッパリわからない。つまり、それがわからなくとも前半のストーリー展開はハラハラドキドキの連続だから、結構面白いわけだ。

ところで私がふと思ったのは、この誘拐犯のリーダーがサングラスを外せば、テリー伊藤に似ていること。そのこと自体はもうどうでもいいのだが、ビックリしたのはいかにも悪人ヅラをしたこのリーダー役を演じているのが霍建起（フォ・ジェンチイ）監督の名作『山の郵便配達』（99年）で映画デビューを果たしたリウ・イエ（『シネマルーム5』216頁参照）だということだ。『山の郵便配達』は、章子怡（チャン・ツイイー）主演、張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『初恋のきた道』（00年）（『シネマルーム5』194頁参照）と並ぶ日本人の大好きな中国映画の代表だが、10年前にはあんなに純真だった青年が、今やこんな悪党に？もともと、『山の郵便配達』に続く『小さな中国のお針子』（02年）（『シネマルーム5』294頁参照）、『パープル・バタフライ』（03年）（『シネマルーム17』220頁参照）ではデビュー作と同じような清楚な役柄だったが、その後の『PROMISE プロミス』（05年）（『シネマルーム17』102頁参照）や『王妃の紋章』（06年）（『シネマルーム19』155頁参照）では少しずつ性格俳優にも挑戦していたから、本作での悪役挑戦はむしろリウ・イエの望むところ？もともと「国際警察だ！」とごむ割に、メガネをかけた気弱そうな素人ヒーロー、アボンとの駆け引きに翻弄され続けるから、その悪役としての本当の実力は？

■■■私の目には、これくらいのカーチェイスがベスト■■■

私は1997年に香港旅行に行ったが、超高層ビルが林立する香港の街は極端に狭いから、歩行者も車も立体的に移動するところが多い。もともと、 그레이スが監禁されている小屋があるのはかなり田舎らしいから、山道もあるようだ。『007』シリーズや『トランスポーター』シリーズ、『TAXi』シリーズなどはカーチェイスが1つの目玉だが、近時の『007/カジノ・ロワイヤル』（06年）、『007/慰めの報酬』（08年）さらに『トランスポーター3 アンリミテッド』（08年）などのカーチェイスはあまりにも速すぎるから、動体視力の衰えた私にはそれを楽しむのは少ししんどい。そんな私の目にとって、本作でアボンが演ずるカーチェイスはわかりやすく最高。

まず小手調べは、水路を走るシーン。そして圧巻は、車がビュンビュン走っている幹線道路を逆行していくシーンだ。アボンの運転する車はかろうじて衝突を避け、すり抜けていくわけだが、アボンの背後ではそれらの車が次々と玉突き衝突を引き起こしたのは当然だ。さらに、途中でアボンの車のブレーキが利かなくなったから、もはや絶体絶命？さほど運動神経が良さそうに思えない、ひ弱なメガネ男アボンはこの危機をどうやって突破していくの？

また、ケータイの電池が切れかけたアボンが必死で充電用バッテリーを購入しようとするシーンはいかにもコーヒーブレイク的な笑いを誘うコマとなっているが、こりゃ面白い演出。アボンはそこでピストルをぶっ放したが、なぜアボンがピストルをもっているの？また、いくら 그레이スを助けるためとはいえ、ここまで命の危険を冒したり、強盗犯人と

してテレビで放映されるようになるまで、なぜアボンは頑張るの？そんなこんなの、映画
中盤における私の目には程良いカーチェイスの醍醐味をたっぷりと楽しみたい。

■□■垣間見る警察内部での出世争いは？■□■

アボンがグレイスからの電話を受けたのはたまたまのことだから、それをタチの悪いイ
タズラだと思わずグレイスの懸命の訴えを本当だと信じたのなら、アボンは一刻も早くそ
の電話を警察に聞
かせるべき。もち
ろんアボンの考え
も同じだったが、
たまたま出会った
のが交通課の警官
だったうえ、誘拐
犯たちが戻ってき
たためグレイスが
電話口でしゃべれ
なくなったから、
この交通課のファイ
刑事（ニック・
チョン）がイタズ
ラだと決めつけた
のは当然だ。

ファイ刑事を演
ずるニック・チョ
ンがジョニー・ト
ー監督作品の常連
であることは前述
のとおりだが、元
特捜のエリート刑
事だったファイが
今はしがたい交通
課の仕事をしてい
るのは一体なぜ？
また、かつてファイ
の部下だった警



『コネクテッド スペシャル・エディション』DVD 3,800円(税抜)
発売元：ブロードメディア・スタジオ株式会社/株式会社ハピネット
©2008 Emperor Motion Picture(International)Limited, Warner China Film HG
Corporation & BNJ Armor Entertainment Limited. All Rights Reserved.

官（エディ・チョン）が今やエリート警官として凶悪事件捜査の指揮をとっていたのは一体なぜ？本作のメインストーリーはグレイスとアボンとの間で繋がっている1本の電話をめぐるハラハラドキドキの追跡劇だが、そこにファイ刑事とその元部下をめぐる警察内部の出世争いの物語が絡んでくるから、それにも注目。

今はしががない交通課の警官にすぎないファイ刑事は、アボンと別れた後どこでどんな活動を？そして、それがいつどういう形でアボンの追跡劇と合流していくことに？

■□■2人のご対面は？■□■

本作の原題である「保持通話」は、中国語を読めない人でも何となく意味が通じるはず。他方、英題は「CONNECTED」で邦題は英題そのままの「コネクテッド」。これも、1本の電話を命綱として繋がっているアボンとグレイスの関係を表現するタイトルとして十分理解できる。本作はそのタイトルどおり、グレイスの車の横っ腹に車をぶつけられるシーン以降、スピード感いっぱい展開でアボンによる犯人グループへの追跡が続く。結果的にそれは後手後手に回り、グレイスの娘ティンティンも誘拐され、グレイスの弟ロイも拉致されることになるのだが、そこからのアボンによる総反撃が本作の面白さだ。さらに本作が面白いのは、前半と中盤はもちろん、終盤の展開に至ってもアボンとグレイスのご対面できないばかりか、あまりにもハードな追跡劇と脱出劇の中、ついにアボンのケータイが壊れてしまうため、グレイスとのコネクテッド自体が不可能になってしまうこと。このままでは万事休す。誰もがそう思うはずだが、ここから火事場のくそ力的に意外な爆発力を発揮するのがアボン。誘拐犯の一人との「対決」を制しそのケータイを奪取したアボンは、以降気弱な経理マンとは思えない、弁護士顔負けの交渉力をもって誘拐犯のボスとケータイでの「コネクテッド」を頼りに対峙していくことになる。したがって、いわば邦題の「コネクテッド」の前半3/4はアボンとグレイスのコネクテッドであり、後半からクライマックスに至る残りの1/4はアボンと誘拐犯のボスとのコネクテッドに充てられることになるから、その変化にもしっかり対応してほしい。しかして、アボンとグレイスのご対面はいつ？それが本作最大の楽しみだが、それはあなた自身の目でしっかりと。

■□■どこに、どんなとんでん返しが？■□■

本作のクライマックスシーンの舞台は空港。つまり、アボンはグレイスを助け出す作業に命をかける中でも、息子との約束を忘れずに空港に駆けつけたわけだ。そして空港にはファイ刑事はもちろん、大勢の部下を率いたファイ刑事の元部下だったあの刑事も参集。これにて誘拐犯は一網打尽にたいほされ、一件落着！誰もがそう思うはずだが、さて、ここからどんなとんでん返しが？ここまでの私が書けるギリギリの線。したがって、後はあなた自身の目で。

2009（平成21）年9月16日記